

# 参拝のしおり

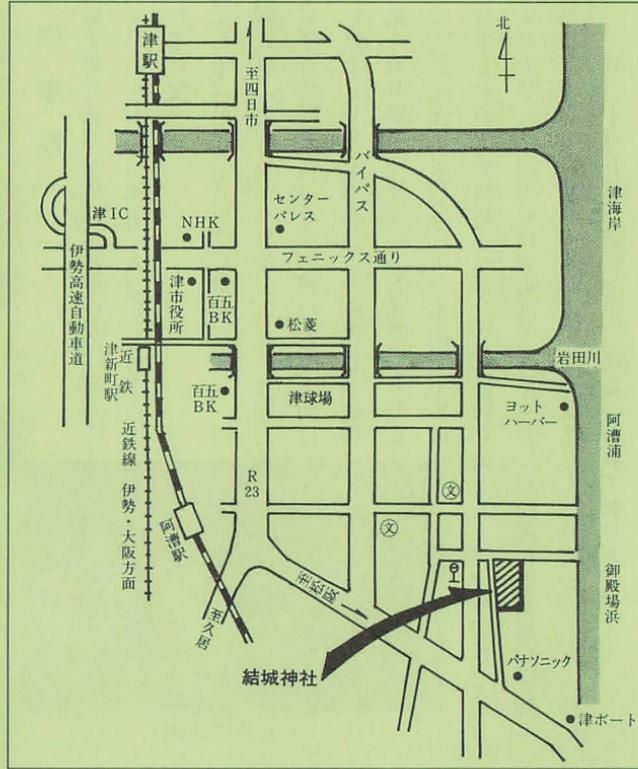


太平記のふるさと

## 結城神社

〒514-0815 津市結城町  
 TEL 059 (228) 4806(代)  
 FAX (224) 6591

### 結城神社交通略図



三交バス 津駅より15分毎 結城神社前下車  
 タクシー 津駅より15分 津新町駅より10分

- 祭 日
  - 一月一日 歳旦祭 初詣
  - 一月十日 初えびす
  - 二月十七日 祈年祭
  - 二月中旬～三月中旬 したれ梅祭
  - 五月一日 例大祭
  - 五月三日
  - 十一月十五日 七五三詣
  - 十一月二十三日 新嘗祭
  - 十二月三十一日 大祓除夜祭

#### ● 建造物

- 社殿(本殿、幣殿、拜殿) 松造銅板葺 五十八坪
- 齋館、社務所 松造銅板及瓦葺 四百二十坪
- 社宝館 八坪
- 参集殿 木造瓦葺 九十坪
- 剣道場(結武館) 木造瓦葺 八十坪
- 相撲場 一棟 五十坪
- 石鳥居、社号標 四日市市 将棋名誉名人小菅剣之助寄進
- 狛犬(鑄銅製) 北村西望作 四日市市伊藤伝七氏寄進
- 石燈籠 津市内全小学校児童寄進
- 石玉垣 延八十間 御木本幸吉寄進
- 手水舎 松造銅板葺 一棟 川村久光寄進

#### ● 結婚式場

- (社殿、齋館、社務所、参集殿を利用)
- 式場 五十人参列可能
- 控室 洋間一室、日本間五室
- スタジオ 一室
- 美容室 五室
- 披露宴場 洋式 三室、日本間 二室

#### ● 宝 物(社宝館にて展示)

- 結城神社文書(三重県文化財)
- 後醍醐天皇御諭旨 北畠顕家公下文等四十六通
- 刀剣類
- 来国光作 一口 相州行光作脇差 外五口
- 御祭神着用鎧大袖 軍中旗
- 後醍醐天皇下賜紫旗 その他



● 御祭神

贈正二位 結城宗広朝臣 配祀結城親光卿一族殉難將士

● 御鎮座地

津市大字藤方字八幡田二三四一（結城町）

● 御事歴

結城上野介藤原宗広公は陸奥白河（現在の福島県白河市）の城主、入道して道忠と称されました。

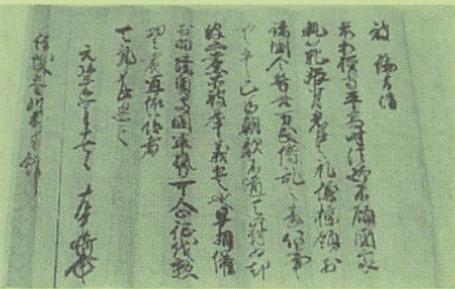
元弘三年大塔宮の令旨並に綸旨を奉じて後醍醐天皇に忠義を尽され新田義貞公と協力して鎌倉幕府を亡し建武中興の大業を助けられ賞として名刀鬼丸の太刀を賜わり故郷に錦を飾り奥羽の平定に労苦を捧げられました。延元元年足利尊氏再び京都を犯すに到りましたので義良親王を奉じて北畠顕家公と共に錦旗を翻して西上せられました。南風競はず再度の旗挙も終に遠州灘にて暴風雨の難に遭われ其の志を得ずして当地に薨せられました。時に延元三年（西紀一三三八）十月五日、御年七十三才といわれております。



（宗広公勲功画）

● 沿革

当社は昔地方民が「結城明神」と称えて宗広公の御墓側に小さな祠を建て、御神徳を受けました。処から始まり、俗に「結城医王大明神」と唱えて航海安全、病氣平癒に靈験あらたかでありました。数百年の星霜を経て寛永九年津藩主藤堂高次公が千歳山より此の地に八幡神社を遷祀せられた後も古社八幡宮と称し産土神と同様崇敬されておりました。明治十三年三重県御巡幸の折、幣帛料の御下賜あり次で明治十五年一月二十四日特旨を以て別格官幣社に列せられ壮嚴なる諸社殿が建立され、国家の宗祀として御神威いよいよ高まり昭和十二年宗広公六百年祭斎行に当っては全国民の熱誠なる奉賛によって境内の整備社殿の改築が行はれ面目を一新した



（結城神社文書）

しましたが惜しい哉昭和二十年七月二十八日戦災により御本殿以下諸建物一切烏有に帰しました。戦後昭和三十一年復興第一期、三十三年第二期工事竣工、昭和六十二年秋宗広公六百五十年祭斎行続いて社殿以下附属建物等が整備されました。

● 神域

約一万坪（神苑に「しだれ梅」約三百五十本植栽）

● 御墳墓

総坪 二百三十六坪 総高 十三尺二寸（御影石）



往古は塚上に石地蔵六体が安置してあり、結城塚或は入道塚と称されておりましたが文政七年津藩主藤堂高克公深く宗広公の忠徳を慕い結城明神社殿再建と同時に湊川楠公の碑に倣って墳墓を修理し地蔵を台石に埋め石棚を設け墓碑を建て自ら「結城神君の墓」と染筆し背面には藩儒津坂孝綽に命じて宗広公の忠義を旌表する碑文を詳録せしめられた。